



< 最近の話題 >

2 型糖尿病治療薬 GLP-1 作動薬の次の進歩(肥満症治療薬)

食事をしてブドウ糖やアミノ酸が小腸に到達すると、小腸からインクレチンという消化管ホルモンが分泌されます。GLP-1 (glucagon-like peptide 1) はインクレチンの一つで、膵臓のβ細胞にある GLP-1 受容体と結合してインスリン分泌を促し、血糖値を下げる働きをします(図 1)。GLP-1 は DPP-4 という酵素によって速やかに分解されてしまうため、分解を阻止するために作られたのが DPP-4 阻害薬であり、DPP-4 で分解されにくくしたのが GLP-1 受容体作動薬です。血糖値が上昇したときのみインスリン分泌を増やすため、単独で使用する場合には低血糖を起こしにくいことが特徴となります。

GLP-1 受容体作動薬は 2010 年に皮下注射剤として初めて発売され、2013 年からは週 1 回製剤、そして 2021 年には経口製剤(リベルサス®、かわら版 No23, 50 参照)、そして本年 4 月に GIP (グルコース依存性インスリン分泌刺激ポリペプチド) 受容体と GLP-1 受容体に同時に作用するチルゼパチドが発売されています。さらに、本年 1 月に肥満症を適応としたセマグルチド(商品名：ウゴービ皮下注)の製造販売が承認されに至っています(図 2)。

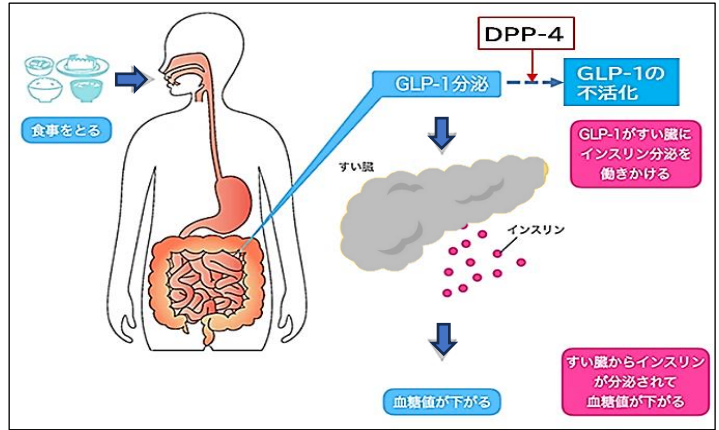


図 1. GLP-1 の作用

【引用文献】

- 1) 日経メディカル「抗肥満薬として承認された GLP-1 受容体作動薬」
<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/series/drug/update/202304/579270.html>
- 2) 日経メディカル、GLP-1 作動薬の開発進む、2023 年 2 月 10 日号

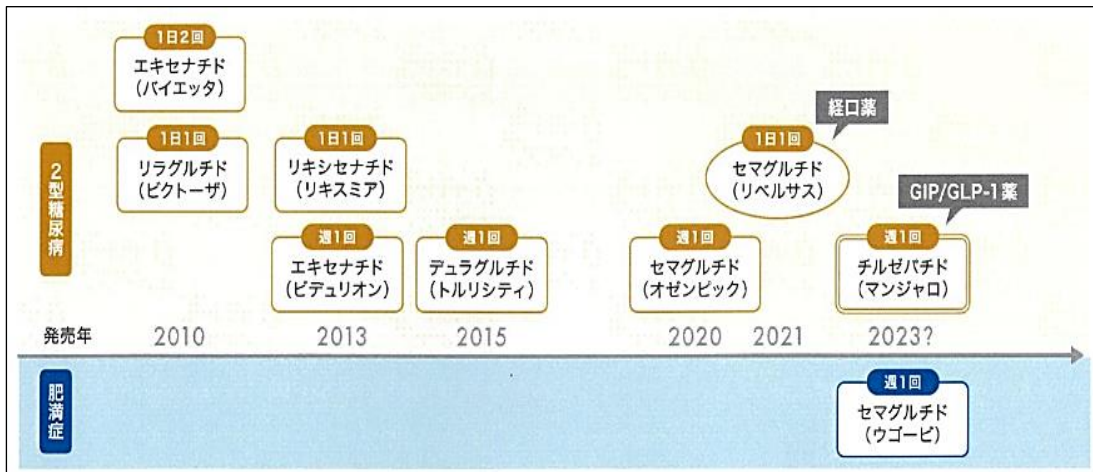


図 2. 国内における GLP-1 受容体作動薬の発売状況 (日経メディカル、2023 年 2 月 10 日号から転用)

< 最近の話題 >

GLP-1 製剤の在庫逼迫について

2 型糖尿病治療薬として開発された GLP-1 受容体作動薬は、脳に働いて食欲を抑え、胃に働いて胃の働きを抑える(食べてすぐに満腹を感じる)ことで体重減少をもたらすことから、肥満症治療薬としての開発もすすめられ、最近にはセマグルチドが肥満症治療薬(ウゴービ皮下注)として製造販売承認を受けるに至っています。

しかし、以前から GLP-1 製剤の体重減少作用に注目して、美容・痩身・ダイエットなどを目的とした適応外使用が増えていることが問題となっていました。このようなこともあって、最近では GLP-1 製剤の在庫不足の事態となり、厚生労働省では 7 月 28 日に事務連絡「GLP-1 受容体作動薬の在庫逼迫に伴う協力依頼」を通知しております(右図)。

事務連絡
令和 5 年 7 月 28 日

各 都道府県保健所設置市特別区 衛生主管部(局) 御中

厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課

GLP-1 受容体作動薬の在庫逼迫に伴う協力依頼

医薬品の安定供給につきましては、平素より御尽力いただき、厚く御礼申し上げます。
2 型糖尿病に適応を有している GLP-1 受容体作動薬については、需要の増加に伴い一部の製剤において限定出荷が生じております。
こうした状況について、貴管下関係医療機関、薬局及び医薬品卸売販売業者等に対して周知いただくとともに、限られた医療資源を必要な患者に適切に供給できるよう、安定的に供給されるまでの間、下記について周知をお願いいたします。

記

1. GLP-1 受容体作動薬について、返品が生じないように、買い込みは厳に控えていただき、当面の必要量に見合う量のみの購入をお願いしたいこと。
2. GLP-1 受容体作動薬については、これを真に必要とする 2 型糖尿病の患者への供給が滞ることのないよう、適正使用に努めていただきたいこと。
3. 医薬品卸売販売業者におかれては、上記の趣旨を理解いただいた上で、糖尿病治療を行っている医療機関、及び薬局への GLP-1 受容体作動薬の優先的な供給をお願いしたいこと。